

特別展示「満州基督教開拓村と賀川豊彦」趣意書

賀川豊彦が手がけた数多い事業の一つに、満州基督教開拓村事業があります。戦前、国策として大々的に展開された満州開拓移民事業の一環として、キリスト教界を挙げて基督教開拓村事業が実施されました。そして賀川はこの事業の提唱者として、また開拓村委員会の委員長としてその推進に大きな役割を果たしたのです。事業そのものは、日本基督教聯盟が主体となり、それを日本基督教団が引き継ぐ形となりましたが、それを担った指導者たち、さらに実際に開拓団に参加した人々の多くは、賀川から直接・間接の影響を受けた人々でありました。結果として、長嶺子基督教開拓村（団長・堀井順次）、太平鎮基督教開拓村（団長・室野玄一）の二つの開拓村が作られ、これに参加した人々は、81世帯、216名に及びます。そのうち生存・帰国が確認されている人々は116名、死亡53名、不詳47名という記録が残されています。この事実からだけでも、この基督教開拓村事業の問題の深刻さをうかがい知ることが出来るでしょう。

しかしこの満州基督教開拓村事業の事実は、戦後ほとんど公けにされて来ませんでした。それはキリスト教界の戦争責任、国策協力の実態を明らかにすることでありましたし、なにより事柄の深刻さが、関係者の口を重くさせたこともあったようです。そもそも賀川自身が、戦後、この基督教開拓村事業について語ることはついにありませんでした。

1980年代になって、ようやくこの満州基督教開拓村事業についていくつかの研究が試みられるようになりましたが、資料的に不十分であったこともあり、その全貌を明らかにすることは出来ませんでした。ところが最近になって、当時の開拓村委員会の主事・栗原陽太郎によって記された「満州基督教開拓村委員会記録」及び関連資料が発見され、それにもとづいてこの事業全体の実証的な研究が可能になったのです。

賀川豊彦記念松沢資料館では、2006年10月3日から12月2日の二ヶ月にわたって、「満州基督教開拓村と賀川豊彦」という特別展示を実施します。賀川豊彦の事業やその成果について、ただそれを顕彰するだけではなく、その問題や課題についても検証する責任があるからです。

展示は、満州基督教開拓村関係の第一次資料、開拓団や団員の写真、団員名簿や年表などによって構成される予定です。また展示期間中、元・団員の証言や、研究者の講演なども企画しています。是非この特別展示の趣旨をご理解くださり、ご協力いただきたいと思います。

財団法人 雲柱社
賀川豊彦記念松沢資料館